

## 【キーワード】

生活教育では、教室にじっとすわっているだけでなく、教室の中、学校の中、地域のおちこちをうろろろします。

小さい子も、そのあたりをいつしよにのんびり散歩するだけでいろいろな自然、ひと、そして季節などの変化と出会います。行事でせわしく追われるだけが保育ではないのです。

小学校に入学すると「校内探検隊」で給食など学校で働いている人たちに出会います。

「春みつけ」や「○の文字のつくものさがし」などで世界を再発見しに繰り出していきます。そこからのものを切り取って教室に持ち寄って新しい世界をつくります。

教科でも「わり算探検隊」は商店でわり算がどう使われているか聞いてきます。生活と科学がつながります。探検になれてくると、地図を持って勝手に学区内を走り回るようになります。校庭でも、梅の木を見つけ、ジャムやジュースをつくったり、場所を見つけて田んぼをつくったりして、友だちと友だち

友だちと先生、専門家がつながっていきます。

先達（専門家）といつしよにうろろろしてその専門家を内面化して心に住ませるのは教育の基本形です（アリストテレスはしやうよう逍遥学派）。調査やフィールドワークになります。専門家は相手に先手を持たせ、感想や疑問に応えることから専門への世界を広げます。山で専門家と一緒にサルを追いかけることでサルや生態系のことが見えてきます。トヨタ産業技術記念館をうろろろするとき、綿についてや産業革命、植民地の歴史など専門的な解説があると世界の見え方が全くなり、廊下でのちよつとした打合せや生徒への

## 生活教育 キーワード

教師もうろろろすると、教材研究が深まり、廊下でのちよつとした打合せや生徒への声かけて学校が楽しくなります。

（研究部・加藤聡一）

文献① かつおきんや「井戸堀吉左衛門」牧書店、一九六九年。

文献② 小沢俊郎編「賢治地理（宮沢賢治研究叢書2）」学藝書林、一九七五年。